

渡部昇一著「講談・英語の歴史」PHP 新書、PHP 研究所、2001 年 7 月 27 日刊を読む

1. (1)○この、ヴォキャブラリー問題を、イギリスに留学していた頃に痛感した。
 - ①私は、論文を英語で書いていた。難しい英語の専門書を読むことができた。
 - ②しかし、イギリス滞在中、ホテルのラウンジで、アメリカ人の学者たちが、「ニュー・ヨーク・タイムズ」や「タイム」をぱらぱらと見ているのに、私はそれができなかった。
 - ③テキストの正確な理解度、テーマについては、英語で発表する文章力の方は私の方が上でも、彼らのように、「タイム」や「ニュース・ウィーク」を、ホテルで、ぱらぱら読むことはできなかった。

・そうした新聞や雑誌の文章は難しくないのにである。
- (2)○では、なぜ読めないのか。
 - ①それは、私の知らない単語が莫大にあるからであると、私は悟った。
 - ②このことを痛感した私は、「タイム」「ニュース・ウィーク」を読みながら、「単語帳」をつくり始めた。
 - ③そして、「ヴォキャブラリー・ビルディング」を自分に課すことにより、不十分な自分の語彙の問題を解決した。
- (3)①ボディビルディングをやると、思いものでも持ち上げられるように、「ヴォキャブラリー・ビルディング」をやると、わりに簡単に単語力がつく。
- ②これからの英語を学ぶ際には、「ヴォキャブラリー」が入れられるべきである。
- ③<参考>語源に分解し教える方法を取り、教え方がうまい、ノーマン・ルイスの「Word Power Make Easy」をマスターすると、知らない単語はほとんど出てこなくなるぐらい、「タイム」「ニュース・ウィーク」が楽に読める。

・実にいい本である。

2. (1)①英文法の基本的ルールをマスターするまで努力さえすれば、様々な差別を乗り越えられる。
- ②だから私は、学生にきちんと修得するように勧める。
- ③外国に出かけて買い物するだけなら構わないけれども、留学をしたり、試験を受けたり、契約するなどの次元で英語を使う人間が、「私は、ジャパニーズ・イングリッシュだ」といっても、絶対に教授や、契約相手は相手にしてくれない。
- (2)①レポートの中で、単数複数間違いが何か所もあるようでは、何を書いてもだめだ。
- ②しかし、きちんと文法にしたがって書けば、向こうの先生は目をむく。
- ③ディグリー(学位)を取ろうという人は、とにかく、英文法が大切だと教えるのが適切である。
- (3)①発音は、英語圏で暮らして、直す努力をしていれば、相当程度、きれいになる。

②私がアメリカにいたときに、東欧から亡命してきたインテリが教授になっていた。

③ひどい発音で授業をしていたが、ヴォキャブラリーはしっかりしていた。

3. ①子どもの時からそのコミュニティーにいるわけではないから、発音はよくないに決まっている。

②しかし、直す努力をしながら、長くいれば、必ずよくなる。

・だから、許してもらえる。

③大切なのは、やはり「英文法」と「豊かなヴォキャブラリー」である。

<コメント>

(1)「一度学んだ英語は、スラスラよく読めるようになるまで、発音練習・暗唱、書き取り練習をすることを「英語の学習習慣」として身に着けること。

(2)「意味の分からない語句」、「発音の分からない語句」は、「辞書で意味を調べる」こと、「発音記号を調べる」こと。

(3)調べた「意味」「発音記号」は、「意味調べノート」に書き写し、その場でしっかり覚えること、書き取り練習もすること。

「効果の上がる学習方法」として、たとえ短期間でも、開倫塾に在籍している間に、すべての塾生に是非、御指導ください。

よろしくお願いいたします。

気温が低い日が続きます。お体お大切に。

来年も、よろしくお願いいたします。

2025 年 12 月 31 日(大晦、おおつごもり)5 時 10 分